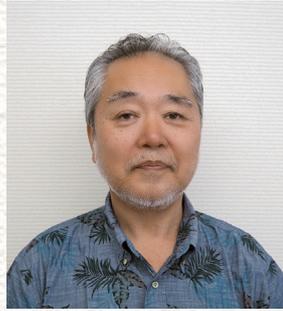


# 酒は不和のもと？



佐々木氏



確かバルザックの『ゴリオ爺さん』の一節だったか。農家の妻が、父親が夫がワインを割らずにストレートで飲むのを下品だとひどく怒る場面があったように記憶している。

ワインを水で割る！

今そんなことをする人はまづいない。それこそ逆に、不作法だとなじられかねない。けれども古代ギリシアではそれが常識であり、この習慣が少なくとも十九世紀ごろまではヨーロッパの一部に残っていたようである。

古代ギリシアでは、用途に応じてさまざまな壺が作られた。ワインや水、穀類などの貯蔵・輸送用にはアンフォラ、ピトス、ヒュドリリアなど、オ

イルや香水用にはアラバストロン、水差しや杯にはリュトン（角杯）、キュリクス、オイノコエーなどがあり、さらにはワインの水割り専用の大型の壺クラテールもあった。

饗宴を長く楽しむ

水で割ったらいしくなくなるような気がするのだが、当時のワインは糖度もアルコール濃度も高かったとする説もある。何のために薄めたのかと言えは、饗宴を長く楽しむためであり、酔いすぎで不始末をしでかさないためでもあるようだ。

割り方には厳密な作法があった。まず酒席から少し離れたところに割り専用の大型

壺クラテールを置き、アンフォラなどからワインを注ぐ。これに水を加えて混合し、別の器に汲みだして酒席に運ぶ。通常の祝宴や饗宴における混合比率は、ワイン1…水3、長く節度を保ち続けることができるようにである。もう少し内輪で楽しみたいときは1…2、早く酔いたいときやどんちゃん騒ぎに興じたいときは1…1だった。

図版1はギリシア時代の饗宴（シュンポシオン）の様子。イタリア南部、かつてギリシ

アの植民地だったことからマガナ・グラエキア（大ギリシア）と呼ばれた地方で発掘された「ダイバーの墓」北面壁画である。

男たちがぐつろいで酒を飲みながら議論している。手にもっているのは、横たわる姿勢でも飲みやすいキュリクスと呼ばれる杯だろうと思われる。議論が主目的だったので、ワインは酔わない程度に口の渴きを抑えるためのものであり、ワインと水の混合比率は1…3であろう。ちなみに、今日のシンポジウムはこの慣

**医療法人社団 正風会**

理事長 石井正三

**石井脳神経外科・眼科病院**  
 玉川コンタクトレンズセンター  
 いわき市小名浜林城字塚前3-1 TEL.0246-58-3121(代)

**石井正記念 石井医院**  
 デイケアセンター  
 いわき市配食サービス事業  
 いわき市小名浜字本町60 TEL.0246-54-5330

石井医院居宅介護支援事業所  
 石井正記念石井医院3F TEL.0246-38-8301

小名浜訪問看護ステーション  
 石井正記念 石井医院2F TEL.0246-54-5802

総合在宅支援センター  
 石井正記念 石井医院3F TEL.0246-54-5330

---

介護老人保健施設 **テルメ照島** 天然温泉通所リハビリテーション TEL.0246-62-0034

**いしがいの村** いしがいの村居宅介護支援事業所 TEL.0246-77-3223  
 いしがいの村訪問リハビリテーション事業所  
 いわき市小浜町東ノ作164-2 TEL.0246-62-0030  
 いしがいの村訪問介護事業所

---

社会福祉法人 **ケアハウス小名浜** いわき市小名浜字本町60-6  
 正風会 TEL.0246-73-0100



図版2  
●黒絵式キュリクスに描かれたエリスのトンド

紀元前520年頃＝アッティカ地方(アテナイを中心とするエーゲ海に面したギリシア南西部)産、旧博物館(ベルリン美術館島内)蔵



図版1  
●「ダイバーの墓」の北面に描かれた饗宴(シュンポシオン)の様子

紀元前5世紀頃＝フレスコ画、イタリア南部

習(もちろん酒宴ではなく議論の方)に由来している。

図版2は酒杯キュリクスの内側に描かれた女神エリスの図像。形に合わせて円形の構図におさまるようになっていて、「トンド」と呼ばれる。キュリクスを満たすワインを飲みほしたときに現れる仕掛けになっている。

ギリシアの女神エリスはいさかや不和の女神であり、ローマではデイスコルディアという。コルディアは心臓や心を意味するラテン語。デイスがつくと心が離れた状態つまり不和の意であり、逆にコンコルディアは心が一つになる調和や協調を意味する。革命後に命名されたパリのコンコルド広場は、つまり市民の心を一つにという意味が込められているのである。

### 飲み過ぎに注意？

再びエリス。神話では神々が集う婚姻の祝宴に自分だけ招待されなかったことに腹を立て(不和をもたらす神など結婚式に呼びたいはずもないのだが)たエリスが祝宴に現

れ、黄金のリングを投げ込んで宣言する。「最も美しい女神のもの」と。

これに反応したのがゼウスの妻ヘーラー、戦(専守防衛)の女神アテーナー、そして愛と美の女神アプロディーテー(ヴィーナス)である。私こそがと譲らない三人。誰を選んでも禍根が残ると考えたゼウスは賢明にも審判役を固辞、代わりに指名したのがトロイアの王子パリスだった。パリスが選んだのは、この世で最も美しい人間の女を贈呈するという条件を申し出たヴィーナスであり、密約も果たされた。だがその女ヘーラーはギリシア王族の妻だっ

た。妻を奪われて面目を失ったギリシア側がトロイアに戦を仕掛ける。これが神話に高いトロイア戦争である。

だれもかわりたくないエリス。なぜこんな女神を酒杯の底に描くのか——人はしばしば、楽しい宴席で杯を重ねると次第に籬(なだ)が外れて、つい暴言暴挙に走ってしまうものである。それは取り返しのつかない不和を生む。だから杯を空にしたとき現れるこのエリスのトンドは、「飲みすぎないように注意なさい」という戒めなのである。

### 筆者プロフィール

佐々木 吉晴

ささき・よしはる

1956(昭和31)年宮城県生まれ。東北大学文学部哲学科美学西洋美術史専攻卒業。いわき市在住。1980年、いわき市立美術館建設準備室に勤務、学芸課長、副館長を経て2012年から2021年まで館長。現在、宇都宮美術館長、斎藤清美術館長、全国美術館会議理事・災害対策委員長



お客様に信頼いただける  
パートナーとして

福祉用具  
レンタル

特定  
福祉用具販売

住宅改修



株式会社セイダイいわき営業所介護事業部

〒971-8151 福島県いわき市小名浜岡小名2丁目3-1(丹野ビル2F)  
TEL.0246-88-8777 ●営業時間/9:00~18:00(日曜・祝日休み)